



むらおかもも か 村岡桃佳選手プロフィール

村岡さんは4歳のとき病気で下半身が不自由になり、それからは車いすが必要となった。それまでは、外で遊ぶのが好きな元気な女の子だったが、友達と鬼ごっこをしても車いすだと特別扱いされ、それが嫌でだんだんと家に引きこもるようになっていった。そのようななか、小学2年生のとき、父親に勧められて車いすスポーツの体験イベントに参加すると、もともと体を動かすことが好きな村岡さんは車いす陸上や車いすバスケットボールをするようになっていった。そして、小学3年生のとき、人生を変える体験をする。友人の誘いで初めてチェアスキーに乗ったのである。雪のない埼玉県で生まれ育った村岡さんにとって雪はとても新鮮で、陸上競技とは違うスピード感や爽快感を感じることができて、楽しく、気持ちよい経験となった。これがきっかけとなり、その後はスキー場に行く回数が年々増えていった。

中学2年生、村岡さんはパラスキーヤーが練習する長野県のゲレンデにいた。そこで目にしたのは、ポールの間を滑る競技スキーを練習しているパラスキーヤーであり、見たこともない滑りだった。そんなとき、「桃佳も滑ってきたら？」という誘いが…。初めての競技スキー、それは村岡さんの好きだった自由に滑るスキーの感覚とは別のものであった。「つまらない」…、それが本音だった。しかし、滑るうちにできることも増え、楽しさが芽生えてきた。そのような時期、村岡さんを劇的に変えた人物がいた。パラリンピック3大会のメダリストである森井選手である。「桃佳ついてこい！」の声で森井選手の後ろを滑るようになっていった。最初は「ついていけないじゃん」と思った村岡さんであったが、物言わぬ森井選手の滑りからインスピレーションを受けた村岡さんは高速で曲がれるカービングターンの技術を習得。負けず嫌いの性格もあり、時がたつにつれてだんだんとポールを攻めることができるようになっていった。一方で、時速100kmを超えるチェアスキーへの恐怖心と常に戦ってきた。「転倒したらどうなるのだろうか？」怖くてたまらなかった。それでも攻めるターンを自分のものにするためにトレーニングを続けた。パラリンピック出場のために…。そして、17歳でソチパラリンピックに出場する。

ソチパラリンピック出場を目標に努力してきた村岡さんの心は躍った。しかし、気持ちとは裏腹に初戦のスーパー大回転では痛恨の失格。悔しさのあまり選手村に帰ると大泣きをした。それでも、最後の大回転では5位入賞。表彰式を見つめる村岡さんは、表彰される選手の国旗を見ながら、「次こそは自分があるそこに立ってやる」と決意した。後に村岡さんは、この大会を「通過点というよりもむしろスタート地点」だと語る。

高校生活も終わりになる頃、村岡さんはずっとあこがれていた早稲田大学スキー部を目指した。そして、自ら大学に電話をしてパラアスリートでも入学できることを確認すると、パラアスリートでは初のトップアスリート入試に合格。当時の監督の努力もあり寮のバリアフリー化が進められ、村岡さんはやがて寮で暮らすようになる。日中は大学の授業、トレーニングのある日は車でトレーニング施設に出向き体をつくる。寮に戻るのは夜10時や11時になる生活をこなしていった。

順調に見えた大学時代であったが、村岡さんはスキーをやめようと悩んだ時期もあった。「スキーをしてるからこんなつらい思いをするんだ」という思いがどんどん大きくなり、本人は当時をこう振り返る。「本当に毎日泣いてたし、ご飯ものどが通らない、寝られない、何もやる気が起きない、気づいたら泣いてるみたいな。自分は病気だと疑うくらい思いつめてたときがあった。」そんな村岡さんは、まわりの多くの人に相談し、アドバイスをもらいながら自分の気持ちを立て直していった。この壁を乗り越えた大学3年生の村岡さんは平昌パラリンピック(2018年)に出場し、能力を開花させた。女子大回転(座位)での金メダルをはじめ、出場5種目すべてでメダルを獲得した。現在、村岡さんは、だれもが認める世界のトップ選手になるという夢のために日々練習に励んでいる。

年 組 名前

■ ^{むらおかもも か}村岡桃佳選手の映像やプロフィールから、インスピレーションを受けたこと（心を揺さぶられたことや、^{し げき}刺激を受けたこと）を書こう。

・まねしたいこと ・見習いたいこと ・すごいと感じたこと など



年 組 名前

村岡選手の姿を見て自分を振り返ろう。

- 自分にとって「勇気」「強い意志」を持って成しとげたい
「新たな一歩（目標）」とは

【村岡選手の例】

- ・ 誰もが認める世界のトップになること

- 自分の目標達成の前に立ちはだかるハードルとは

【村岡選手の例】

- ・ ソチ大会での失格
- ・ スキーをやめたいという気持ち

- ハードルを越えるために、何をしたらよいだろう？

今まで実行してこなかったアプローチを考えよう。（具体的な行動で考える）

【村岡選手の例】

- ・ 早稲田大学スキー部に入部するために電話で問い合わせた。
- ・ 行き詰まっても周りの人に相談して解決した。